

新春挨拶

新年のご挨拶

一般社団法人日本作業船協会 会長
武井俊文



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。特に、東日本大震災、長野県北部地震および広島豪雨災害により避難生活を余儀なくされておられる多くの皆様が穏やかで希望を見いだせる新年を迎えられることを切に祈っております。

昨年は地震、台風、高潮、豪雨、豪雪、竜巻ならびに噴火など、自然災害が全国各地で頻発し、自然の脅威が年々激しくなってきたようです。ハードとソフト両面からの強靱化社会を築くために施策の一層の充実を期待しております。

また、ソチオリンピック・パラリンピックや国際スポーツ大会での我が国アスリートの目覚ましい活躍に拍手喝采し、ノーベル物理学賞受賞に大きな喜びを得ました。受賞者が基礎・応用研究に黙々と取り組んで来られた姿勢に、日本人の変わらぬ資質を見つけ大きな誇りを感じた次第です。

本年は地方再生に資するために地域の基幹産業の競争力強化やクルーズ船の増加に向けた港湾整備が重要施策の一つとして掲げられております。昨年創設された作業船買換特例税制が活用され、作業船の代替が進み、工事が円滑に実施されることを期待しております。

また、エネルギー確保も我が国の最重要課題の一つで、液化天然ガス（LNG）の輸入が増えております。円安の影響もあり、貿易赤字は拡大し平成26年度上半期は5兆円程度の赤字と見込まれております。直

近では原油価格が下落しておりますが、依然としてエネルギー資源の安定確保と多様化が課題となっております。その一環として、洋上風力発電の実証試験が行われております。弊協会においても洋上風力発電施設の施工設置船に関する自主研究を実施しております。昨年はドイツのブレーマーハーフェン港の風力発電資機材保管積出ヤードおよびイギリスの施工設置船を視察しました。洋上風力発電を事業として成り立たせるには、短期間に数多くの風車を設置し開業をすることが必要であり、そのためには資機材保管積出ヤードのレイアウトや施工設置船との連携など効率的な運搬・施工が重要な要素の一つであります。今後さらに調査研究を深め、地域振興と海洋産業の振興に貢献してまいりたいと考えております。

世界の渡漕船は1996年の2,478隻をピークに年々減少しており、2014年には1,766隻が稼働しております。2013年にオランダやベルギーに本拠地を置く4大渡漕会社が大幅な減船を実施した模様です。その背景については今後調査を行う予定です。

現在、我が国の現有作業船一覧2015の調査を行っております。今回は港湾工事の多様化や外洋化に伴い、半潜水式運搬台船や多目的外洋作業船などを新規に調査対象としました。

本年も弊協会の事業推進に対しまして、会員の皆様のご指導、ご支援を重ねてお願い申し上げます。会員の皆様にとりまして本年が良い年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。